技能評価システム移転促進事業(SESPP)

事業実施報告書【ラオス】

担当講師	稲川 文夫(SESPP 事務局技術顧問)
実施期間	2024年1月15日(月)~1月19日(金)
実施場所	ラオス ビエンチャン市 技能開発院(SDI)
研修	技能評価技法研修(SEM)
実施職種	機械検査3級

結果概要

1. 対象者数: SEM 受講者数 10 名 / 修了者数 9 名

2. 日程

2. 日程	
日時	実施内容
1月15日(月) 8:30~16:30 (全て現地時間)	【技能評価技法(SEM)】
	(1)職務分析による技能基準及びカリキュラムの開発
	①職務分析とは
	②Occupation, Job, Duty, Task の概念
	③職務分析の進め方
	④職務体系図の作成
	⑤職務体系図に基づく技能基準の作成
1月16日(火) 8:30~16:30	【技能評価技法(SEM)】
	⑥カリキュラムの構成要素
	⑦カリキュラムを作成するための要点
	⑧職務体系図に基づくカリキュラムの作成
	(2)日本の技能検定について
	①意義について
	②等級の種類、技能及び知識のレベル
	③試験の構成(学科試験の形式、実技試験の形式)、級別の違いを説明
	(3)総合技能評価方式とコンピテンスベースの評価方式の特徴
1月17日(水)8:30~16:30	【技能評価技法(SEM)】
	(4)機械検査職種の技能検定の基準と細目
	①実技試験を構成する作業
	②学科試験を構成する科目
	(5)機械検査3級の実技試験問題(ねらい、作業構成と内容を解説)
	①各種測定器による測定作業
	②ねじの有効径測定
	③外側マイクロメータの器差測定
	(6)機械検査3級の学科試験問題(科目別の問題構成、内容を解説)
1月18日(木)	【技能評価技法(SEM)】
8:30~16:30	(7)3 級学科試験問題による模擬試験(60 分)
	・試験後、試験問題の解説
	(8)学科試験問題を作成するための要点
	(9)学科試験問題作成演習(各自 10 問作成)

1月19日(金) 8:30~15:00

【技能評価技法(SEM)】

(10)学科試験問題作成演習(続き)

(11)作成した問題の発表及び内容検討

(12)まとめ

(13)アンケート

3. 講評

(1) 今回の受講者は、訓練施設で自動車科の訓練を担当している指導員で構成されていた。 そのため、普段の訓練の中で測定器を使った実技訓練の時間が少ないので、マイクロメータやノ ギスによる測定値の読み取りが正確にできる者は 4 人であった。機械検査の SAT を実施する場 合、実技試験問題の作業 1 の課題を使って測定技能を高める必要があると感じた。

- (2) 職務分析に基づいて作成した職務分析体系図からカリキュラムを作成する方法が良く理解できた。この方法を使ってカリキュラムの改訂・改善をしてみたいとか、新しい職種の技能基準を作るときに、この方法を試してみたい等のコメントが受講者からあり、職務分析手法に強い関心があることが分かった。
- (3)機械検査の基準と細目に基づいて学科試験問題の作成方法を説明した後、受講者が学科試験問題を 5~10 問作成する演習を行った。そして、作成した学科試験問題を発表してもらい、その内容を全員で検討した。その結果、作成した学科試験問題の約 50%が若干の修正を加えれば、試験問題として使用できるレベルあると判断された。学科試験問題の作成能力が一定レベル達成されたと感じた。

4. アンケート結果

<SEM>

◆受講者9名(回答者9名)(※5段階評価)

 満足度:
 5:大変満足=9人

役立ち度: 5:大変役立つ=8人 4:役立つ=1人

継続性: 5: 是非継続すべき=9人

【有意義なプログラムは何だったか?】

- ・試験問題の作成
- ・職務分析(3)
- ・測定器の使用(2)
- ・カリキュラム分析
- ・自動車の部品検査の研修
- ・試験問題の作成
- ・研修内容全て

【改善点・提案】

- ・本邦研修(5)
- ・次年度以降も継続した研修の実施
- ・研修期間を長くしてほしい(2)
- ・実技及び実際の測定を重点的に実施してほしい
- ・理論及び実技の研修を同時に実施してほしい

【意見・感想・実施希望】

- ・自動車に関連する職種の研修(6)
- ・機械修理及びメンテナンスの職種(機械内部の部品の検査)
- ・空調設備の標準取り付け
- ・継続的な研修の実施
- ◆現地責任者 1 名(回答者 1 名)(※5 段階評価) 継続性: 5: 是非継続すべき=1 人

【改善点・提案】

・日本での研修を希望する。

【意見・感想・実施希望】

・自動車分野の研修